

# 新戦略

最近、スマートフォン無料通信アプリ「LINE」で使うスタンプ画像の制作や、ゲームの開発にも事業を展開している。「丸井さんはどうしたいの」。繊維業界内の同業者のさやまきは、当然社長の耳にも入っている。しかし「機屋がこんなことをやっていいのかわかると、自分でもたまに思うこともあるけど」と豪快に笑い飛ばした。ITを切り口にした企業改革は、この1年で社内浸透されてきたところだ。

## 看板は替えない

繊維企業からIT企業へ、看板を替える気はない。ただ、発想を変える必要がある。旧来の大手メーカーからの委託生産に依存したままでは「自分から仕事を取りにくく」「攻めの気持ち薄れ、生き残ることは難しい」と考える。「健全な危機感を持つべきです。自分は生き残れると思った瞬間、甘えが出てくるから負けるんだ」。

製造業という根幹は守るが、少子高齢化で市場が縮小する中、昔と変わらぬ新商品開発やコストダウンだけでは、事業の発展に限界がある。「旧態依然の仕事のや

# 健全な危機感を持つ

宮本徹社長

## 丸井織物 ①

### 略歴

みやもと・とおる 石川県中能登町(旧鹿島町)生まれ。1975年慶大工学部卒。日産自動車勤務後、77年丸井織物入社。専務を経て99年から現職。北陸蝶理会長。東レ合繊クラストー会長。63歳。



## ITで発想変える

り方は楽ですよ。でも、お客が何を求めているのかわからなくなり、踏み込んだ提案もできなくなる。それだと今後は厳しいね」。

LINEのスタンプを制作するにも、客とやり取りをして迅速に対応しなければならぬ。もちろん、自社では前例がないことばかりだ。それでも最近、若手の間に、仕事を楽しむ雰囲気が出てきた。変化の早いIT業界で流れに追いついていくには苦労はあるが、意識して変わろうとすることが大事だと心得る。今後は本業と連携したビジネスモデルを育て上げる必要があるとなる。

もちろん、全てがうまくいくとは限らない。やってみないとわからない。「ためらうだけでは、何も変わらない。井の中の蛙で、いきなり変われといわれても勇気が

出ないですよ。だから、小さいことから順々にやればいい」百貨店が「物」の販売だけでなく体験イベントなど「コト」の提案を強化するように、製造業も「コト」に注目し、自ら売りに行く姿勢が必要だと引き締める。

### 新たな刺激を

課題は、新しい発想を生み出す人材だ。近年、石川県内にUターンする30歳前後の中途採用を進めている。「技術はもちろん、社内の雰囲気にも新しい刺激になる」。

ITを切り口にした企業風土改革は、どんな形に落ち着くのだろうか。まあ、ちょっと見てよ。ちゃんと仕掛けていきますから。「能登の機屋」の挑戦は始まったばかりだ。(この項は、天日亜衣が担当しました)